

# 舵輪

## 遠征の挨拶

業務課長 芋生 秀作

平成十年十月に着任以来、皆様には大変お世話になり、ありがたうございました。九州出身の私にとりまして、富山県は縁遠き地でしたが、海王丸を通して展帆ボランティアの皆様とともに仕事ができ、またたくさんの思い出もでき、今となっては第二の故郷のように感じています。

着任して最初の総帆展帆の時、「ベテラン」の方が多いなと感じたのが、率直な印象です。しかし、皆様の力強い掛け声を聞き、現役実習生に優る気迫を感じた時は、海王丸は本当に富山県に来て良かったなと確信しました。

一年半の間、練習船では経験できない色々な仕事がありました。餅つき大会に鏡開き、海王丸御輿を作った雨の降る中パレードしたこともありました。また、三日の「とことんシリーズ」が富山の、しかも海王丸パークから始まったのも思い深いイベントのひとつです。しかしなにもするにもボランティアの皆様がいつも喜んで手伝ってくれた、その皆様の笑顔が一番の思い出となりました。これからはまた、陸上から離れ実習生相手の仕事が始まります。年々、最近の若い者は・・・とよく耳にするようになりましたが、船の厳しさや楽しさ、自然の雄大さを通して、世間の荒波を乗り越えられるような若者を育てて行きたいと思えます。

貴重な経験を贈ってくれた海王丸、そして財団の大きな柱である展帆事業を支えて下さった展帆ボランティアの皆様、厚く御礼申し上げます。

業務課技師 木村 昭夫

「練習船に戻るっちゃー！」

収穫多き富山での勤務を終えるにあたり、ご挨拶致します。

まだ雪化粧する立山連峰を見上げ、日本海を望みながら、平成十年四月に着任しました。以来、展帆活動を通じながら

ボランティアの皆さんと共に楽しく、健康的な二年間を過ごしてきました。北陸での生活は初めてです。何事も経験と各所を見物に行きました。松川べりの桜、入善や砺波のチューリップ、夕日の散居村、縄ヶ池の水芭蕉、呉羽の梨畑、氷見海岸海水浴、ヒスイ海岸……

某新聞の富山百選、そのすべてを目のあたりにすることはできませんでしたがどれも一見の価値以上のものがあり、時間の許す限り北陸を楽しみました。越前ガニや利賀ソバ、新鮮な魚など食に閉してもとても満足しました。

富山県の皆様は本人が気づいているのかわかりませんが、強い郷土愛をお持ちの方が多く、豊富な水や富山湾などの自然に加え、季節ごとの名所があることも要因の一つかと思えます。

海王丸が富山に係留されてから早十年が過ぎ、皆様の熱意に支えられた次の十年を迎えます。帆走ができるだけの装備を持ちながら停泊を続けることは海王丸自身むずがゆい思いをしているでしょうが、多くの方に往年の勇姿を見ていたくために、今後も安全第一で海王丸の総帆展帆をよろしく願っています。練習船に戻り航海訓練を続けます。富山湾沖を航海するときには、必ず大型双眼鏡で海王丸を探し、リーダーで立山連峰を映し出し、ボランティアの皆様顔を思い出すことでしょうか。日々の健康に感謝しながら、「今」を大切に過ごして行こうと思えます。皆様どうぞお元気で。

四月一日付けで、二人とも航海訓練所に復帰予定です。豪放闊達な芋生チーフ・オフィサーは練習船大成丸のチーフ・オフィサーとして、容姿端麗な木村セコンド・オフィサーは練習船銀河丸のジュニア・セコンド・オフィサーとしてそれぞれ乗船予定です。残念ながら、両船とも、今年度行動予定に伏木富山港への寄港はありませんが、もしかしたら両人の独断で変更していただけるかも知れません。(そんなことはあってはならない) 御安航を祈念しましょう。

着任者の挨拶文は、次号にて掲載します。

## ボランティヤ通信

あこがれ、一九九六航海型(小笠原航海)編 一九九六年八月二十八日〜九月九日(一泊三日) No.9631 No.267 酒井 聰

5. ああ、ランドホー母島 九月二日 天候 晴れ

ついに、目的の母島が見えた！ランドホー！昔から、船乗りが辛い航海をして何週間も海ばっかどうにかかなりそうになりながら、やっとのこと陸地が見えたときに言う言葉がランドホーなんだって、さあ、みんなでランドホー！さて、目的地の母島は、小笠原諸島の二番目に大きな島。もちろん一番は、父島でほかに、兄島、弟島、妹島、姉島、蟹(ムコ)島、姪島、なんてのもあるんだ。現在、人が住んでいるのは、父島と母島だけ。このへんは、小笠原の歴史と深い関係があるので、興味がある人はじっくり調べてみて下さいね！(幕末の移住、戦争に強制撤去、占領そして、返還)

さて、母島の中岬沖に投錨、なお沖港は定期連絡船が来るのでダメなんだって。(はじま丸のじゃまになる)海底までは二〇mほどあるんだけど、もう、澄みきって見える見えておさかなに、さんご？も良く見えます。上陸の準備といつても港じゃないため棧橋もないので、ゴムボート二艇で十名づつ母島に上陸しました。母島は、九月上旬だというのにまだ真夏三二度ありました！でも、蒸し暑くはなく、快適でした。離島のためか、なんだからとつてもゆっくりにした時間が流れています。

もう午後になっていて港周辺で自由行動、浜辺で泳ぐ人や港のお土産屋でお財布と相談したり、公衆電話で家族に連絡をとったりしていました。(ちゃんとかかります！)

さて、このあとの予定はシークレット・ビーチでBBQ！BBQって(バーベキュー夕食)のことだって！船から食料と飲み物(もちビールも)を港から少し離れた入り江(ここがシークレット)で鉄板焼を始める。なかには、素潜りでシャコ貝を調達するのも(秘密！)夕暮

れもせまり、歌に笑い、ここまでの辛かったこともしばし忘れさせて楽しめ！飲んじゃえ！飲んじゃえ！食べ終わったら、ちゃんと後片付けして、浜は綺麗に！ここで、野宿できないので、ボートで船に戻りました！

6. ゆっくり、木陰でうたた寝 九月三日 天候 晴れ

上陸二日目は、半日自由行動ですが、乳房山(四六二m)に登るグループとその他に分かれました。郵便局のポストで絵葉書を出したが、本土との定期便は朝出航しているの、一週間後になるそうです！なお、郵便局は平日なんだけど、午前中だけでした！！

ここで、母島のショップ案内、(当時一九九六)店は三店で、まずは、魚協の売店、生活雑貨や食料品があり帽子を買ってきました。あと、母島観光協会は珍しいものがあります。特に、母島オリジナルのシヨップングバッグ(紙袋)がお洒落で、くじらグッズが揃ってあります。あとジューズの自販機にSSP産のジンジャーエールがあったのには、うーんさすが？と思えました！

みんなが下りてくるまで一休み、つて木陰でのんびり！いままでずっと揺れながら寝ていたので浜で寝てもなんだか、揺れています。うたた寝をしていると、みんなが、港に集まったのでボートであこがれにもどり、夕方には、出航となりました。母島！ありがたう！つて感じかな？小笠原に行った人って、たぶん父島つてのが多いのに、これじゃ、母島だけってことになったぞ！またいつか、小笠原にもどって来るぞ！つて決意したんだけど、いつになるやら？さて、今夜もワッチだぞ！がんばるぞ！めざせ大阪南港！

7. 酷、タッキング 九月四日 天候 晴れ

小笠原までは西よりの風を掴んできたから、復路はちよつと辛い。何って？向風ぎみになるから！だつて帆船ですの、向風では、ダメすると、どうするって？ジグザグに横風を受けながら進むことになる、帆を右左に張り替える。これがシート替え！ほらアメリカスカップで

# 舵輪

ブームを右に左に振つてるでしょ？あれを、あこがれでするんだけど、これがもう大変だ。マストをロープで反対方向に引くんだけど風が当たって重い重い！(二六ヒビヒビ)これを全部の帆でやるので、全グループで各マスト毎に集合となり、みんなタツキングです！(オール・ハンス・オン・デッキ・総員上へ)

今回は、タツキングに挑戦だ！上手まわし？風をめぐればいい受けて速度が増したとこで、舵輪をめぐればいい風に切り上げて風を左右逆方向から受けてまた、進む(難解!)これは、よっぽどうまくやらないと、どんどん風に流されて風下に落ちてしまう。これを三回繰り返したんで、もうヘトヘトになった。でも、やっていると、向きが変わっていくにつれてマストの陰が右から左へと流れていくのは、不思議！反対に風下から回り込むのがウエアリング？下手まわし？

そのほかの用語として、  
\* シャープアップ・・・ヤードをいっぱいに切る  
\* コース・バイ・ザ・ウインド・・・いっぱいに切り詰めて進む  
\* ヒープツ・・・帆走中、行き脚を止め、その場にとどまること  
あと、その夜にイルカが二頭、あこがれと伴走しました。たわむれの一時でした。昼間だったらもつとよかつたね

8. 驚き、ソウフ岩 九月五日 天候 晴れ

早朝、午前四時半、もうすぐ 婦婦岩(そうふがん)が見えるからって連絡がありました。何？それなんなの？海はつかなの？この辺(東京と小笠原の間)ぐらいい海底二千〜三千mぐらいい！そんなとこに何が？って思っていたけど、実は海拔一〇〇mほどの岩がずいぶんと。  
あこがれは、婦婦岩のまわりを5周ほどしてる間に、なんと、マグロやカツオがかかってきた！おかずだ(笑)とも、よい漁場になってるんだって！みんなもスゲーってことで集まってきました。ちなみに、婦婦岩は少し大きめの地図(海図)じゃないと出てない。また、

一般の航路からも外れているそうで、見た人はとっても少ないんだ！ラッキ！ありがとう キャプテン

## ウエルズキの甲斐

(次号に続く)

陽春の候、真鍮磨きの途中さぼって日光浴をしようと思甲板上に下りてみると、向こうにスラツと背筋の伸びた若い女性が見かけた。その美しい女性、間もなく仕事が始まるので急いでいたに違いない。もし彼女が躓きでもしたら、さつと手を差し伸べ、愛用しているエルメスのハンケチを、とわくわくしたのが、ポケットの中には街でもらったテレクラのポケットティッシュしか入っていない。  
そういえば、小生、すっかり走ることをしなくなつた。  
・・・学生時代に限らず、団体スポーツをしていると、走る練習以外でも移動するときや監督・先輩に呼ばれたときなど必ずダツシユであり、そのお陰で当時は太ることがなかつた。頭と体を同時に使うのが苦手な小生は、運動を再開することに勇気が必要であるが、六年前、職場の野球チームに入り、久しぶりにベース・ランニングをしたところ、二塁あたりで息が上がりに、躓きそうになつたことがある。プロ野球選手が内野ゴロや凡フライを打ったとき、途中で全力疾走を止めるのを、少年の頃は甚だ憤慨したが、彼らも頭を使うようになってきたのだらうとようやく思えるようになってきた。(彼らを悪くいつているのでは決してない)  
ところで、船の生活では、昔の戦闘配置、現在の総員退船部署など以外には基本的に走つてはならない。ただでさえ狭くて危ないし、二四時間、交代で誰かが休んでいからである。しかし、時代の変化やクルーズ感覚なのか、現在では各自安全に気を付け、他に迷惑のからない範囲で、体調管理を目的にジョギング等の運動を推奨し、暴露木工甲板上で認める場合が多い。一方、船の階段で勢よく「ドンドン」と昇降したり、通路をサンダル履きで「ペタペタ」と歩くことは現在もタブーであるが、実際は・・・さあ、マストに登って体脂肪を燃やそうと。(運動を目的とした意味のない)

高所作業は危険なのでやめましょう。(係)

## ポランティアの集い

前号では、日時及び会場等についてお知らせしました。今回、交通の便を図り、富山駅及び高岡駅と会場との送迎バスを左記のとおり設けるので、希望者は利用下さい。

### 記

- 迎え便  
一号車 富山駅北口  
一七時三〇分発  
二号車 高岡駅南口  
一七時三〇分発  
送り便 (集い終了後、会場発)  
一号車 富山駅北口行き  
二号車 高岡駅南口行き  
いずれも三〇人以上乗れる中型バス一回運行です。バス前面の行き先表示は、「帆船海王丸記念財団」となっています。送り便で小杉駅下車を希望される方は、一号車にて乗車時その旨を運転手へ知らせして下さい。

## 総帆展帆日程

四月二三日(日)を皮切りに、別紙のとおり一〇回予定しています。今年度は、パーク誕生祭や団体に合わせた日程としているため、特に一〇月期はタイトな感じがします。多くの来客が予想されますが、各位、声援よりもマスト指揮者の号令、観客よりギアに集中願います。  
なお、四月二三日(日)は、当財団元常務理事の市原義三先生(小生が練習船実習生の頃の専任教官)が展帆作業を見学し、反省会時には是非とも関係者を激励したいとおっしゃっています。特に面識のある古手(ペテラン)ポランティアの方、奮って参加下さい。

## 海洋講座

海事思想の普及を目的に開催している海洋講座は、五月五日(祝)のロープワーク技術講座を皮切りに、別紙のとおり五回予定しています。いづれも総帆展帆日に開催するため、昼休みの有効活用ができます。一般青年も対象としており、研修室を利用する関係上、御協力願います。また、参加者は、マナーを十分に守って下さい。

満船飾

四月二十九日(祝)、富山における帆船海王丸の一般公開十周年を記念し、船首からマストを経て船尾まで国際信号旗を無作為に並べて掲げる「満船飾」を実施します。ポランティアで作業参加希望者は、左記により船上へお集まり下さい。

### 記

- 〇八三〇 電飾降下・旗、掲揚等作業開始  
一〇〇〇 手旗信号訓練等  
一一〇〇 解散

## 帆船日本丸総帆展帆日程

左記日程のとおり計一回を予定しています。印日は海王丸の総帆展帆予定日と重なっているため御注意願います。参加希望者は、昼食の手配等の都合上、海王丸係まで連絡下さい。なお、先方の財団では、今年度春・夏季、帆船日本丸建造七〇周年記念事業として、種々イベントを計画しているようです。

### 記

- 四月二十九日(祝) 九月三日(日)
- 五月五日(祝) 九月二三日(祝)
- 五月二八日(日) 一〇月八日(日)
- 六月一日(日) 一〇月二九日(日)
- 七月二〇日(祝) 一月二二日(日)
- 八月二〇日(日)

## あこがれ

春の彼岸が過ぎ、手術後久しぶりに自転車で職場に通える季節がやってきました。サドルの形状に尻がまだ完全にフィットしないが、今のところ快速快便です。昨年は、街灯にいた二羽の鳥からフンをかけられ、怒ったあまり投げた石が外れて自動車に間髪当たりそうになり、一石二鳥の喜びではなく一攫千金(弁償金)の思いであった。また、見張り不十分やルール違反の自動車に何度か危ない目にあわされ、交通標識とは自転車のためにあるものだとしみじみ感じた。皆さん、海王丸にお越しの際は、呉々も安全運転に心掛けて下さい。

# 舵輪

着任の挨拶  
総務部長

旭

総務係長

業務課長

熊田 公信

業務課技師

持田 高德

## ボクシング通信

『あこがれ 一九九六航海型(小笠原航海)編』一九九六年八月二八日〜九月九日(一二泊一三日)No.9631  
No.267 酒井 聰

9. 競え、ゲロリンピック 九月七日  
天候 晴れ

船内生活って慣れてくると単調になってきちゃうんだな! つまり、起きて食事してワッチまた、食事してワッチの繰り返しで、ちゃんと考えてあつて、運動会がある! 名づけてゲロリンピック!

まずは、フェイスペイントで選手入場です。みんな顔になつてます。次は、キヤプテンによる開会の辞(いままで、大変だったが、今日は、ワッチのことは忘れて大いに楽しんで内容)そして、選手宣誓!(あこがれ精神にのっとりつてやつ!)

いよいよ競技開始、障害物競争。ただでも障害物の多い甲板をさらに、椰子の実やデッキブラシ、ホーリーストーンで足元が危ない!とこころをワッチチームごとりにリレーです! ちなみに、ワッチチームは、カペラ、スピカ、リゲルです! あと、クルーチームとの4チーム対抗戦です! 借り物競争は、船内のドコカにある物を探し出してくるんだが、これが見つかんない! ワッチや船内生活をちゃんとしたら分かるっていうけど、うん、無い無い! だれか教えて!!!

いよいよ大詰め! 綱引き! パチパチ! でもね狭いデッキじゃ直線じゃ場所を取れないから滑車を使ってV字に引くん! 二六ひくぶじゃなくて、せいのワッチシヨイでガンバレ! でも、滑車で丈夫だよな!

いよいよ結果発表! ヤジャン! 優勝はカペラ! ヤッホー! 優勝じゃ! 優勝のご褒美は外国のアイスだ! ちなみに、オーストラリア産でした。あこがれの海外航海のお土産らしい。お味はうん大ざっぱな味。他の

ワッチにもちゃんと分けて食べました!

10. 反乱、トレニーズデイ 九月八日  
天候 晴れ

ゲロリンピックが終わり、こんどはトレニーが自主的に行動をきめるトレニーズデイです! これは、いままでクルーにこき使われていたお返しをする日(ウソ)。ってシナリオはなんでもいいわけで、やっぱりその予定に! まずは、首謀者を決める。ブレインを集めて明日の決行の準備を夜中までやってました。反乱旗に衣装(笑)を作り、クルーを縛り上げる。ロープを束ねて、いよいよ明日は...

一夜明けて、なにごともないようにトレニー全員が、いつもの日課に入りました。タンツに始まり、朝食、クルーミーティング(前日の反省と一日の予定の確認)、つつがなく終わろうとした時に暴動開始! まずは、トレニー全員が蜂起! クルーを縛り上げ、船を支配し、以下を宣言!

トレニーは、あこがれの理不尽なクルーの処遇に対しこれを排除し、船の自由を獲得した!

ついに、あこがれに自由が解放された! すぐに、フルセル(帆をすべて張る)を始める。もちろん、安全を考慮し、人質のクルーの指示を仰ぎ?作業開始。安全第一自由に向かった!

さて、フルセルになったところで、いったん緊張を解除して、各自自由に! (ちゃんとワッチ当番はいる)クルーに恨みを晴らす?もの、マストに登り写真撮影、船の警笛を鳴らして、ビツクリするもの(大きな音!)お昼は、デッキで日向ボッコしながら、お食事会! うん!

あこがれならではのこと、まさにクルーズ! 水平線を眺めながら、今までの苦しかったことや、辛かった日々を思い出し語り合う! 実にロマンチック!

航海で芽生えた恋は、まもなくについでしてしまう切なさに一層... さて、シナリオに戻り、縛り上げていたクルーの一部逃げだし、事もあろうか、船の一部を爆破してしまい、船を退去せねば! 退船部署スタート! 例のボートを組み立て十名づつ船を下りて、あこ

# K A I W O M A R U

# 舵輪

がれを一周する。このときがあこがれの帆走をじっくりと見ることができ、唯一のチャンスです！ トレーニスデイならではの事！ あこがれの雄姿が太平洋を滑っている姿は、あなたそりやゝ素敵ですよ！（短い航海ではできない！）これぞ！ 帆船！ 感動ものです！

退船部署について補足。船舶ではその運行の安全性を高めることを目的に緊急避難訓練（操練）があります。たとえば、火災になったときの消火と退避や、浸水時の対処など。海中転落時の手順を以下に示します。

- 一．発見者はすぐに大声でクルーに知らせる。
  - 二．海中転落者を見失わないように、マストに登り、指で方向を示す。
  - 三．ライフブイなどの浮力をもつものを海に投げ込む。
  - 四．船内への連絡は船内マイク放送にておこなう。
  - 五．帆走時はただちにセイル・ステーションにつく。
- つまり、見つけた人は大声で叫びながら、マスト（高所）にのぼり、転落者の方を指差すことです。しかし、船は急ブレーキをかけて止まることはできない。船舶は、その重量と水との抵抗では、直ぐに停止できない。たとえ、スクリュウを逆に回しても大きな慣性ではダメです。ましてや、帆船では風で進んでいるため、帆を畳むだけでも時間がかってしまいます。だから、帆船に乗ったら転落しないようにどこにでももたれかからない事！ 揺れた拍子にドボンとなります！（おゝコワ！）
- ところで、トレーニの反乱は予定を早めて退船部署で鎮圧！ あわれ、首謀者は船底に拘留されてしまいました！ ちなみに、シナリオでは抵抗の後、命を落とす、海にレッコされるはずでした。
- 夕方に、初日と同じ、四国徳島の橘湾沖に投錨。少し長めの航海では最終日の前日は入港する近くで安着を祝う会（パーティ）をするのが習わしです？ 今夜は、ワッチごとに出しものを決めて演芸会です！ 各ワッチごと、歌を歌ったり、寸劇を披露したり、ゲームをしたりして、最後の夜を名残惜しそつに過ごしました。

## 二．さらば、雨の中の下船

ついに、航海も最後の日となりました。大阪南港に戻るコース、トレーニー全員であこがれのお掃除！ 各ボクから、食堂、シャワー室、トイレに廊下、階段そしてデッキを磨く！ コースは関西国際空港の横を通り途中、連絡船が近くまでよってきたりしていました。また、このときトレーニー達はかなりナーバスになっていました。航海での思い出と、これからまた立ち向かう現実の日々を考えるもの、さまざまだけど、この航海で体験したことは、各自の生活のなかでは、小さな思い出かもしれないが、ズシツとした重しになるのでは！

船内での後片付けも終わり、メスルームに集合したところで、キャプテンより乗船記念の修了証の授与です。航海距離は157海里です。（内237海里を帆走しました）トレーニーたちは、お互いに住所をノートに書き込んだり写真を撮ったりして、これで本当に最後なんだねと確認してうつすらと涙を浮かべるものもいたような？ 雨の中、クルーは南港に接岸準備に追われていました。さて、ついに下船の時がやってきました。クルー達に見送られてトレーニー達はあこがれを後にゆつくりと下船です。

また、いつか乗船すると心に誓う者、すでに次の乗船の申込を済ました者、たぶんもう乗らないだろう者、また、乗船体験をこれからの人生に何らかの形で生かす者、また集う者、笑う者、涙する者、それぞれのトレーニーの姿がありました。それまでは、とても体験できないと思っていたことや出会いにおおいに感激したことを思い出として大切にしよう！ さらに、同乗されたトレーニー達と、クルーの面々に感謝！

（おわり）

次号は、No.404 辻田さんからの投稿記事を掲載します。

SPIONG THE MANBRACE

DHルンギの甲羅干し

係か

# 舵輪

『夢ノチノ通信』

『思い出（船酔い）研究』

No.404 杉田 豊

K A I W O M A R U